

# 世界に目を向けてみよう！

川口 浩美

茅ヶ崎市立鶴が台中学校

◆実践教科：総合的な学習の時間

◆時間数：4 時間

◆対象学年：中学校 1 年生

◆対象人数：166 人

## ◆実践の目的◆

- ①身近な事柄以外の、世界で起きていることや、世界の人々に目を向け、あらためて自分の生活、生き方を考え直すきっかけとする。
- ②パラグアイと日本を比較することから、本当の豊かさについて考える。

## ◆授業の構成◆

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ： パラグアイを知ろう ねらい： 導入のためパラグアイを知り興味を持たせる	場所：体育館 集団：学年 パワーポイントを使い、体育館でクイズを交えてのパラグアイの紹介。パラグアイの場所、特産物、日系移民、協力隊員などの話から、イメージを膨らませる。	(1)パソコン (2)プロジェクター (3)メモ用プリント (4)地図、マテ茶とカップ、アルパの CD など
2 限目 テーマ： 写真からパラグアイを考えよう ねらい： 写真からパラグアイや人々の生活について考え、日本との違いに触れる	場所：各教室 集団：クラス (1)1 限目の内容についての感想、興味のアナケートをとる。 (2)フォトランゲージでパラグアイの生活について考え、興味を膨らませ、日本との違いを感じる。 ・ 班に1枚の写真を配り、写真から読み取れることを見つける。 ・ 自分のお気に入りの一枚を選び、選んだ理由を考える。	(1)A3 に引き伸ばした写真 9枚 (2)プリント 2枚
3 限目 テーマ： パラグアイ人の生活に迫ろう ねらい： パラグアイと日本の違いについて考える	場所：体育館 集団：学年 パワーポイントを使い、2 限目で使った写真の解説をする。協力隊の活動や、子ども達の様子、クイズなどから暮らしの違いにスポットをあてていく。	(1)パソコン (2)プロジェクター (3)メモ用プリント
4 限目 テーマ： 豊かさについて考えよう	場所：各教室 集団：クラス “日本にあってパラグアイにはないも	プリント

ねらい： 日本とパラグアイの違いから、本当の豊かさとは何かについて考える	の”とその逆を考え、どちらの方が豊かな国といえるか考え、意見交換をした。	
---	--------------------------------------	--

### ◆授業の詳細◆

#### <1校時目>「パラグアイを知ろう」

- 体育館でパワーポイントを使い、パラグアイの概要についてクイズを交えて紹介した。
- 主な内容…パラグアイの場所、文化、農業、日系移民、青年海外協力隊など
- 具体物として、マテ茶のカップを見せたりアルパのCDを流したりした。
- 生徒の様子…興味を持って聞いており、質問も数多く出た。特に、路上で仕事をする人（物売り）や、子どもが働くことがあるという点に興味を持った生徒がいた。
- 生徒の感想より
  - ・ パラグアイに行きたいと思った。少し住みたくなった。
  - ・ あまり他の国のことに興味がなかったけど、少しはためになったと思う。
  - ・ 「マテ茶」というお茶を回しのみと聞いてびっくりした。パラグアイの人たちは仲がいいんだなぁと思いました。
  - ・ 野菜があまり食べないからちょっと体が心配。
  - ・ 地球上で文化の違いがあることは知っていましたが、野菜の調理法とかがあまりわからない国があるなんてびっくりしました。
  - ・ 日系移民がいるなんて知らなかったのでもっと知りたいなと思いました。
  - ・ 前にブラジルの事を調べたことがあったけど、似ていたのは食べ物くらいで他のことは全然違った。
  - ・ 日本はけっこう貧乏だと思っていました。だけど、日本はけっこう豊かなんだと思いました。
  - ・ 子どもが働いているのを聞いてびっくりしました。働くのではなくて、学校に行きたいだろうなぁと思いました。だから募金とから集めればいいんじゃないかなぁと思いました。
  - ・ 今日話をきいて、世界についてもっと知り、貧しい人を助けてあげたらな…と思いました。日本だけじゃなく世界が平和じゃないといけないんだと思った。

#### <2校時目>「写真からパラグアイを考えよう」

- 6枚の写真を各班に配り、“写真からわかること”について考えた。また、そののちに“お気に入りの一枚”を探し、その理由を考え、発表した。
- 写真からわかること（生徒の意見）
  - ・ A（農協の農場）…ごく普通の風景、子どもがいる、馬小屋がある、子どもがいる、井戸がある、放牧されている
  - ・ B（新聞を売りに来た少年）…CDを売りに行くところ、日本の木と違う、カバンが木製技術が低い（車やバイクが中古、屋根が瓦、雨よけが瓦）
  - ・ C（小学校3年生の教室）…土足している、同じような顔をしている、暑い地域ようだ、シャーペンを使っていない、机が全て木、ロッカーがない、窓の位置が高い、カバンを後ろにかけている、人数が少ない、楽しく勉強している
  - ・ D（青年海外協力隊の人）…折り紙がある、地球儀がある、広島の新聞みたいのがある
  - ・ E（農場で働く人たち）…ナイフのような物を持っている、服装がバラバラ、日に焼けている
  - ・ F（首都の一角）…発達していない、人があまりいない、暑そう、家がボロい、木（緑）が多い、貧しそう、日本よりビルが少ない、ゴミがあって汚い

- お気に入りの一枚とその理由（生徒の考え）
  - ・ A【6人】…自然の風景がきれい、自然豊か、環境が良さそう
  - ・ B【0人】
  - ・ C【10人】…同じ学校にいるときの写真だから、みんな笑っていて楽しそうだから
  - ・ D【0人】
  - ・ E【2人】…貧しさが伝わってくるから
  - ・ F【5人】…パラグアイのことがよくわかるから、行ってみたいから、めずらしい写真だから
  - ・ G（パラグアイ人農家）【12人】…楽しそうに笑ってる、平和な感じ、木の家が暖かく良い
  - ・ H（移住当時の写真）【4人】…パラグアイの昔を物語っている、日本人の苦労がわかるから
  - ・ I（偽造CD売りの少年）【26人】…CDをがんばって売っている、すごくかわいそう
  - ・ J（首都の様子）【30人】…眺めがいい、日本と違ってきれい、緑が多い
- ※【 】内の数字は95人分を集計したものです。

#### <3校時目>「パラグアイ人の生活に迫ろう」

- 体育館でパワーポイントを使い、前回のフォトランゲージで使用した写真の解説からパラグアイ人の生活に迫り、青年海外協力隊や子どもの生活についての話を詳しくした。まとめは、4校時に考えたい“豊かさとは何か”に注目できるように「では、日本ではどうなのか？」という問いかけをして終わりにした。
- 主な内容…A～Fの写真の解説、青年海外協力隊について、子どもの生活について

#### <4校時目>「豊かさについて考えよう」

- 各クラスでワークシートを使い、日本とパラグアイの違いに目を向けながら、「豊かさとは何か」というテーマに迫れるような展開にした。結論にはクラスによってばらつきがあったが、豊かさと言っても、物質的なものだけでなく、環境や考え方にも判断材料があるということに気づけることが目的であった。その目的は達成されたと思われる。
- 主な内容…違いに目をつけ、日本とパラグアイにあるものや無いものを考えた。それをヒントに、“豊かな国”と言えるのはどちらか、理由も含めて考えた。

A：「パラグアイの方が豊かだ」という意見

- ・ 日本は自然を壊していろいろな物を作っている。でもパラグアイは自然に生きているように思えた。マテ茶を回し飲み、子どもが働いている。みんなが協力してパラグアイを豊かに作り上げているように思える。
- ・ 日本も豊かだが、それはお金関係のことだけだと思う。それに比べて、パラグアイは心が豊かで、心とお金だったら心の方が大切だから。
- ・ 日本は食べ物も不自由しないし、学校にも行けるから豊かだと思うけど、パラグアイはお金がなくてもちゃんと働いて生きていて、日本はお金に頼ってると思うのでお金なくてもちゃんと生きているし、家族を大切にしているパラグアイの方が豊かな国だと思いました。
- ・ 確かに日本は物がおおくてパラグアイよりお金があるし、そう思えば豊かかも知れません。でも豊ってそういう事じゃないと思います。たとえ物や技術がなかりょうが心があれば豊かだと思います。心があれば何でも人を思う心や行動力だって伴ってくるはずですし、いろいろなことを感じられるからです。心が空っぽだと何も感じられないので。
- ・ やっぱりお金や食料も大切である。しかし、今の日本には「心」の面が欠けている。

B：「日本の方が豊かだ」という意見

- ・ 日本は暮らしが豊かだから。生活に必要な物があるから。
- ・ 食料や安心して暮らせる家があるから。電車などもあって便利。
- ・ ほとんどの子どもが学校に通ってる。仕事がある。平和（戦争がない）。

- ・ 技術が発達している。
- ・ ストリートチルドレンがない。
- ・ 青年海外協力隊のようなボランティアがいるのは、進んだ技術やたくさんのお金があるからこそ出来ることだと思います。
- ・ 技術が進んでいて、いろいろなものになれる可能性や自由があるから。

C：みんなの考えを受けて・・・

- ・ パラグアイのように自然がある方がいいという人もいれば、日本のように将来性がある方がいいという人もいて、どちらも納得できた。
- ・ 日本は裕福な暮らしをしていると思った。でも、裕福な生活を送りすぎてもいけないんだと思いました。
- ・ お金が多い＝豊かという考えはちょっと違うのかなと思いました。
- ・ 豊かということはどんなことかなと深く考えてしまいました。お金があつて暖かい心もあつたら素晴らしいことだと思います。でもそれは難しいことなのかなとも思いました。

<授業全体を通しての生徒の感想>

- ・ 世界の様子が少し分かった。外国へ行きたくなったりした。
- ・ 日本がとても裕福なことを知って、自分の生活を見直す事ができた。またこのような授業をして欲しい。
- ・ 貧しい国のことは知ってもあんまり自分のためになつたかわからない。中国とか、身近で行ける国のことを知りたかった。
- ・ これからも世界のいろんな事をやったらいいと思う。
- ・ 世界がみんな平等な世界がよかった。
- ・ 何で貧しい国が生まれるのか。もっとみんな協力すれば貧しい国がなくなると思う。
- ・ 青年海外協力隊は素晴らしいボランティアだと思いました。
- ・ パラグアイには日本と違う豊かさがあつて勉強になりました。日本はこんなに豊かでいいのか、疑問に思いました。
- ・ 世界にはまだ豊かじゃない国もあるけど、もし世界が全部豊かになってしまったらどうなってしまうんだろう。それで戦いが起こってしまうなら、みんな貧しい豊かさの方がいいと思いました。
- ・ 世界に目を向けて真剣に今の世界を見つめ直すことは今後のことにもためになると思いました。大人になったらボランティアをしたいと思っていたので、その勉強にもなりました。

#### ◆実践授業を通しての所感・反省点・今後の改善策◆

- ・ 生徒は興味を持って聞いていたし、何人かはまたこのような授業が受けたいという生徒もいた。生徒の興味・関心を引き出すことが出来たことは、一つの成果だろう。やはり、自分の知らないことを知りたいという思いがあるのを強く感じた。学校で学ぶことのほとんどを、もう今の生徒達は知っているのだから、このように未知の事柄について考えるチャンスを大切にしたい。生徒の“学びたい”という気持ち、“疑問を持つ力”を育てるためにもまたこのような授業に取り組んでいきたい。
- ・ 研修で得た情報が本当にたくさんあったので、テーマの決め方、教材の選び方についてはとても苦労した。最終的には、自分の思いを伝えたいというのを頭に置いて教材研究したためか、写真の選び方や、話題の決め方に授業者の思いが出過ぎていて、結論に対して誘導的になっていた面があるという指摘も受けた。今後も教材の使用の仕方、授業の練り方、全体計画の立て方などたくさんを学んでいきたい。
- ・ 授業の結論はクラスによってバラつきがでたので、授業者によって授業の深まりが違っていた

のかもしれないが、5クラスある学年全体で均一の授業が展開できたことも一つの成果としてあげられる。

- 「豊かさについて考える」という大きなテーマを扱うにすれば、4時間はあまりにも短い。今後2年、3年と学年が上がっていく毎にどのような展開を考えているのかという質問があったが、その計画が現段階で無かったので、3年間を通してどのような力をつけるかという視点が重要だと感じた。今考えられるのは、疑問を持ち、それが行動に表せる（発信できる）ようになるのが最終目標かと思われる。